

愛知サークル10月例会報告

2019年10月19日（日）名東小学校 参加：5名

① 近況報告

- 授業に関する悩みや現状を各自が語り、そこから導き出される課題をもとに、本日の例会を組み立てるため、30分かけて各自の課題を語り合った。
 - a 学年経営について
 - b 話を聴かない子の指導について
 - c 中途半端な実践について

② 「文学教材」の追求

- 「ごんぎつね」（3・4年）①～③の展開案の検討
 - ・9月例会で行った教材解釈をとにした展開案を検討した。本時の目標は、「ごんの夜でも昼でもいたずらばかりする異常性と、その原因としての孤独感を読み取らせることだった。
 - ・今の子どもたちに、「ひとりぼっち」のごんを分からせるために、「夜でも昼でも」「いたずらばかり」に着目して話し合い、「心が通い合う存在がない」ことをつかませる。
 - ・導入時に提示する問題と終末の段階のまとめは、符合するようにするとよい。
 - ・今後に向けて、展開案の原型となるようにしていけるとよい。

③ 「表現教材」の追求

- 体育：「大きな前まわり」「補助倒立」（全校）
 - ・「わしづかみ」という基本が、未だにできていない。教師が「見えて」いるかが問われる。
 - ・子どもをよく観察して、多くの子に共通する課題を発見し、その都度、子どもを集めて課題を指摘することを繰り返す必要があるが、どうしても甘くなってしまうのはなぜか。
- オペレッタ：「手ぶくろをかいに」（3年）
 - ・動きをつける前に、読み合わせをする必要がある。現在上演中のこまつ座の『組曲虐殺』の読み合わせ風景がYouTubeにアップされており必見。参考になる。
 - ・歌は、曲想の空気感の違いを表したい。
- 描画：「バラの花」「空」（3・4年）「ひがんばな」（1年）
 - ・目的は何か。子どもは描きたいと思っているか。形を整えることだけに終始していないか。ある段階では、習作も必要ではあるが。